

FINANCIAL HISTORY

1913 : CENTRAL BANK : AMERICA

連邦準備制度 (FRB)

一人の金融家に頼る危うさから、制度としての「最後の貸し手」が生まれた。アメリカの中央銀行の誕生と進化。

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

何が起きたか --- 1907年パニックとFRBの設立

1907年、ニューヨークの金融市場がパニックに陥った。信託会社の経営破綻が連鎖し、銀行への取り付け騒ぎが全米に広がった。

このとき危機を鎮めたのは、政府ではなく一人の民間人だった。JPモルガン。彼は自らの信用と資金力で銀行家たちを集め、救済パッケージをまとめ上げた。モルガンの私邸が事実上の危機管理本部となった。

危機は収束したが、アメリカ社会は深刻な問題に気づいた。世界最大の経済大国の金融システムが、一人の老人の判断力と善意に依存している。これは持続可能ではない。

1913年12月23日、ウッドロウ・ウィルソン大統領が連邦準備法に署名。FRB（連邦準備制度）が正式に設立された。

WHY IT WAS DIFFICULT

なぜ設立が難航したか --- 中央集権への恐怖

アメリカには、中央銀行に対する根深い不信感があった。

建国以来、アメリカは二度にわたって中央銀行（第一合衆国銀行、第二合衆国銀行）を設立し、二度とも廃止している。「一部のエリートが通貨を支配する」という恐怖が、アメリカの政治文化に深く染み込んでいた。

FRBの設計は、この恐怖への妥協の産物だ。

- 分散型構造 --- 12の地区連邦準備銀行を全米に配置。ニューヨークだけが支配しない仕組み
- 官民のハイブリッド --- 理事会は大統領が任命するが、地区連銀は民間銀行が出資
- 独立性 --- 政治的圧力から金融政策を隔離する設計思想

完全な中央集権でもなく、完全な市場任せでもない。アメリカ独自の「妥協の中央銀行」が誕生した。

CORE FUNCTIONS

FRBの役割 --- 金融システムの守護者

FRBに課せられた使命は、時代とともに拡大してきた。現在の「デュアル・マンドート」は、物価の安定と最大雇用の達成だ。

- 金融政策 --- フェデラルファンド金利の誘導目標を設定し、経済の過熱や冷え込みを調整する
- 最後の貸し手 --- 銀行が資金繰りに窮したとき、FRBが緊急融資を行い、金融システムの崩壊を防ぐ
- 公開市場操作 --- 国債の売買を通じて市中の資金量を調整する
- 銀行の監督・規制 --- 金融機関の健全性を監視し、システムリスクを管理する

FOMCは年8回の定例会合で金融政策を決定する。その声明文の一語一句を世界中の市場参加者が分析する。FRBの決定は、もはやアメリカ一国の問題ではなく、世界経済を動かす力を持つ。

FRB議長は「世界で最も影響力のある経済人」と呼ばれる。グリーンズパン、バーナンキ、イエレン、パウエル --- その発言一つで市場が大きく動く。

WHAT CHANGED

何が変わったか --- 危機のたびに進化する中央銀行

FRBの歴史は、失敗と学習の歴史でもある。

- 大恐慌（1929-33年） --- FRBは金融引き締めを続け、銀行破綻の連鎖を放置した。この「政策失敗」が危機を深刻化させたと、後にバーナンキが認めた
- スタグフレーション（1970年代） ---
ボルカー議長が政策金利を20%まで引き上げ、痛みを伴いながらもインフレを退治した
- リーマン・ショック（2008年） ---
バーナンキ議長が「大恐慌の過ちを繰り返さない」と、量的緩和（QE）という前例のない政策を実施
- コロナ危機（2020年） ---
パウエル議長が即座にゼロ金利と無制限QEを導入。金融市場の崩壊を数週間で食い止めた

100年の歴史の中で、FRBは危機のたびに権限を拡大し、手段を洗練させてきた。「最後の貸し手」から「最後の買い手」へ。その進化は今も続いている。

KEY TERMS

関連用語

連邦準備制度

- アメリカの中央銀行制度。理事会と12の地区連銀で構成

FOMC

- 連邦公開市場委員会。金融政策の決定機関

公開市場操作

- 国債等の売買を通じた資金量の調整手法

最後の貸し手

- 金融危機時に銀行に緊急融資する中央銀行の機能

フェデラルファンド金利

- 銀行間の翌日物貸出金利。FRBの政策金利の指標

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。